

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2024 年度事業報告書

2024 年度の当協会の事業等について報告いたします。

1. 映像アーカイブに関する調査研究

● 「JAM2024」の企画と実施

昨年度に引き続き、今年度も定時総会の議決結果の報告に続き、イベント「JAM2024」を開催する。今年度は慶応義塾大学アートセンターとの共催により、慶応三田キャンパスを会場とする。また、今年度より、会員限定ではなく、非会員も対象とした公開イベントとし、非会員の参加は有料とする一方、本イベントをきっかけに入会への勧誘を行う。イベントは、映像アーカイブのベーシックスを学ぶレクチャー、フィルムから AI まで映像アーカイブの現在と未来を考えるセッション、ならびにライトニングトークによって構成し、今後会員による分科会や一般公開による研究会へと発展するための萌芽と位置づける。また、懇親会を含め、映像アーキビストによる交流の場とする。

初の公開イベント「JAM2024」を、6 月 22 日に慶応義塾大学アートセンターとの共催により、慶応三田キャンパスで開催した。初めての公開イベントなので不手際もあったが、映像アーカイブのベーシックスガイダンス、フィルムから AI まで映像アーカイブの現在と未来を考えるセッション、ライトニングトークを行った。その後に行った懇親会も含めて、映像アーキビストによる交流が行われ、協会への新規入会もあった。

● 公式ホームページの充実

- (1) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては対象者の検討を行ない、順次インタビューに着手する。

オーラルヒストリーに関しては、理事の変更等により、対面形式の新たなインタビューの実施が出来なかった。イベント採録については、当会で 開催の協力を行った「映画の復元と保存に関するオンラインワークショップ 2021」の講演採録の作業を行い、一部をホームページにて掲載した。また、ウェブサイトの会員限定ページに「JAM2024」のアーカイブ動画を掲載した

- (2) 「ヒアリングによる日本タイミング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載⇒会員の郷田真理子さんによる『「現像所技術者に聞く 一日本タイミング技術史をまとめる試み」』に、引き続き協力、ホームページへの掲載を行う。

「ヒアリングによる日本タイミング史」の更新は行えなかったが、映像アーカイブを学ぶために留学し、何を学んでいるのか、どんなカリキュラムなのか、海外でインターンするのはどういう事かなどについて、会員の吉田夏生さんによる「トロント通信 ― 映画の保存を学んでいます―」と題した連載記事を2回分、掲載した。

- アーカイブ・ツーリズムの企画と実施

映像アーカイブ活動の現場や映像アーカイブと重要な関わりを持つ場所を視察し、活動に携わる映像アーキビストや関係者との交流を図るために、昨年度に引き続き、アーカイブ・ツーリズムを企画・実施する。

2024年10月12日、広島において広島市映像文化ライブラリーの施設見学・交流会を開催した。また、2025年2月15日、浜松において木下恵介記念館および静岡文化芸術大学図書館の施設見学・交流会を開催した。

- 映像アーカイブの手法や事例の調査研究と情報共有

国内外における、映画だけではなく映像全般のアーカイブの技術と事例を広く調査し、情報共有する。

2025年1月27日に東映東京撮影所見学会を開催した。

- 2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

- 基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査と検討

本年度もファンドレイジングに関する調査や検討を行うことができなかった。

- 3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

- 2023年度にIMAGICA-EMSとの共催で行った勉強会「映画フィルムを後世に伝えるために今できること―再発見するリリースプリントの価値―」を更に発展させるための方策を検討。

協会での勉強会を開催が出来なかった。IMAGICA-EMSではその後、フィルムの汚染具合を数値化するための検査方法を検討している。

- 日本版 CNC 設立を求める会(action4cinema「a4c」)との間で、映画振興と映画保存に関する公開討論会の開催を検討する。

a4cと協会の間で進展はなかった。

- 4. 映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動

- ホームページ、X(旧 Twitter)を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索

ホームページ、X(旧 Twitter)の活用を行った。X(旧 Twitter)のやりとりから会員になった方もいた。非会員に向けたイベントは「JAM2024」として行った。

5. 2024 年度定時総会の開催

本年度もコロナ禍後の生活スタイルの変化、全国に亘る会員もいることから、オンラインによる総会開催(2024 年 6 月 20 日)とし、総会では、理事及び監事の選任、前年度の貸借対照表、損益計算書及び監査報告書の承認を得た。

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2025 年度事業計画書

1. 映像アーカイブに関する調査研究～

● 「JAM2025」の企画と実施

昨年度に引き続き、今年度も定時総会の議決結果の報告に続き、イベント「JAM2025」を開催する。今年度も、会員限定ではなく、非会員も対象とした公開イベントとし、非会員の参加は有料とする一方、本イベントをきっかけに入会への勧誘を行う。

イベントは、映像アーカイブにおける“デジタル”に関するベーシックガイダンス、地方映像アーカイブのネットワーク作りを考えるセッションや近年の映像アーカイブにまつわる動向を振り返るフリートーク、ならびにライトニングトークによって構成し、今後会員による分科会や一般公開による研究会へと発展するための萌芽と位置づける。また、懇親会を含め、映像アーキビストによる交流の場とする。

● 公式ホームページの充実

(1) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては対象者の検討を行ない、順次インタビューに着手する。

(2) 「ヒアリングによる日本タイミング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載⇒会員の郷田真理子さんによる『「現像所技術者に聞く ー日本タイミング技術史をまとめる試みー」』に引き続き協力、ホームページへの掲載を行う。会員の吉田夏生さんによる「トロント通信 ー映画の保存を学んでいますー」の連載を継続する。

● アーカイブ・ツーリズムの企画と実施

映像アーカイブ活動の現場や映像アーカイブと重要な関わりを持つ場所を視察し、活動に携わる映像アーキビストや関係者との交流を図るために、昨年度に引き続き、アーカイブ・ツーリズムを企画・実施する。

● 映像アーカイブの手法や事例の調査研究と情報共有

国内外における、映画だけではなく映像全般のアーカイブの技術と事例を広く調査し、情報共有する。

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

● 基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査

当法人による基金設置を含め、映像アーカイブ活動の立ち上げと継続を支えるためのファンディングとして、公的支援やメセナ等の民間支援の可能性を探るために、引き続き情報収集を行う。

3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

- 昨年度実施できなかった、映画フィルムの価値や魅力を後世に伝えるための勉強会や一般公開イベントを企画する。
- 4. 映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動
- ホームページ、X(旧 Twitter)を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索。
- 5. 2025 年度定時総会の開催
- 2025 年度定時総会を開催する。なお、今年度もコロナ禍後の生活スタイルの変化、全国に亘る会員もいることから、従前の通り、オンラインによる総会開催とする。

以上